

# 自ら学ぶ力の育成に関する研究

～自主学习ノートへの取り組みを通して～

M11EP001

芦澤 稔也

## 1. はじめに

「やらされているうちは成長しないよ」二者面談や部活動において、教師がよく生徒に言うセリフである。スポーツにおいても勉強においても、自ら前向きに課題をとらえ練習(勉強)していかないと真の実力はついていかないことを言っている言葉である。それでは、我々教師は生徒が前向きに・意欲的に課題に取り組めるような指導をしているのだろうか。

学習指導要領改訂のポイントとして「学習意欲の向上や学習習慣の確立」「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視」が謳われている。しかし、全国学力・学習状況調査の「学習意欲・習慣」に関する調査項目に目を向けてみると、山梨県は他県に比べ非常に低いという結果が出ているのが現状である。その実態をまずは小学校から探求してみたいと考えた。

## 2. 研究の目的

「自ら学ぶ力」は中学校でも満足に育成されているとは必ずしも言えない。それでは、小学校においてはどうか、その実態を自主学习ノートへの取り組みを通して探るとともに自ら学ぶ力の育成に関する可能性について研究した。

## 3. 研究の方法

### (1) 異校種間研修の概要

連携協力校 5 学年 3 組で T1(N 教諭：担任)T2(筆者)の T2 として月・木曜日の年間 219 時間実習。うち、算数の 2 単元の授業研究を実施(全 10 時間)。他に総合的な学習の時間発表会、運動会、校内研究等に参加。

### (2) 自ら学ぶ力の育成をめざした実践

自ら学ぶ力に関しては、児童全員に自主学习ノートを作成させ、それに取り組むことに

より育成を図った。そのとき、とりわけ重視したのは以下の 5 点の方法である。

### ① 長期間継続の働きかけ

児童が家庭において一人でやる復習に負担がかかりすぎるとは長続きがしない。そこで、自主学习ノートに取り組む日を週三日(月・水・金曜日)に限定した。

### ② 記録内容の明確化

その日に行われた各授業の最重要事項(一番大切だと思うこと)のみに絞った。

### ③ 内化・内省・外化をうながす働きかけ

児童が記録した内容をさらに良くするためには、教師の働きかけが必要不可欠であると考え、必ずコメントを加えた。

### ④ 自己の変容に対する自己評価

1 冊のノートが終了した児童には、図 1 に示した OPP(One Page Portfolio)シートを使い、自主学习ノートに取り組む始めと終わりの変容を意識化させるため、自己評価をさせた。

図1表

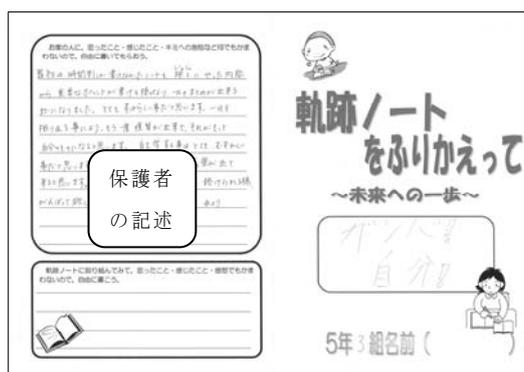
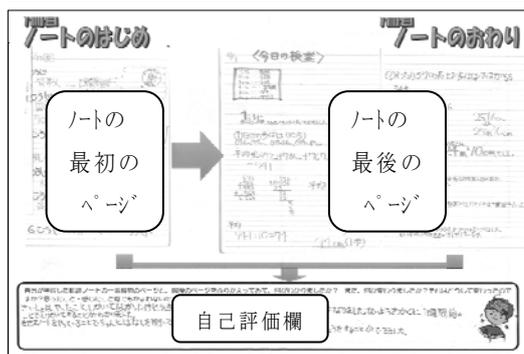
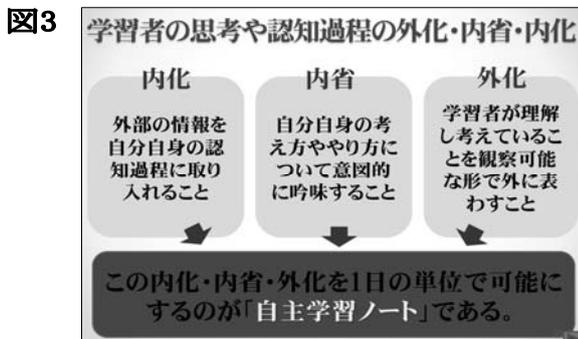


図1裏





(外化) ⇒ 次時 (明日) への見通し・目標をもち ⇒ 何が必要かに気づき ⇒ 次の日の授業 ⇒ という図 3 に示される認知過程の内化・内省・外化をスパイラル的に行うことにした。



**① 最初は教科名しか書けなかった児童の変容**

- ・最初は教科名しか書けなかったが、1冊目が終わる頃には、見開き2ページのノートに変容した児童
- ・ある日をきっかけに格段の進歩を遂げ、単元テストにもその成果が表れた児童

**② 児童のノートに見られる工夫点**

- ・吹きだしやイラスト・キャラクターを使って見やすく・わかりやすく工夫
- ・今日の授業だけでなく、単元全体を振り返っているノート
- ・表紙を工夫したり、自分自身の目標を裏表紙に書いたりしているノート
- ・間違えた問題をやり直すノート
- ・今日の授業 + α の学習

**③ 内化・内省・外化が個別に行われている例**

- ・授業中の自力解決の時間では間違った考え方をしていたが、家で自主学习ノートに取り組む中でその間違いに気づき、内省し改めて外化した児童

**(4) 自己の変容に対する自己評価**

**① OPP シートの記述から得られた知見**

自ら学ぶ力は、自己の変容を適切に見取ることがきわめて重要であると考えられる。ノートが1冊終了するごとに書かせた OPP シートにより児童は、初めて自己の変容を認識できる。児童の記述から「ちゃんと話を聞いて忘れないようにしよう」と努力するようにな

った」「やった問題をもう一度やったり、たしかめたりするようになった」「もっと成長したい」といった、充実感・達成感が得られたり、次への意欲が湧いていることがうかがえた。

**② 振り返りシートの記述から得られた知見**

実習の終わりに際し、全児童に軌跡ノートへの取り組みに関する「振り返りシート」に記入をさせた。児童の記録は以下の5つの表現にカテゴリー化できた。

- (A) 教師からのコメントや親からの称賛に関する表現
- (B) 授業の受け方への望ましい変容に関する表現
- (C) 自分の成長・望ましい変容・進歩に関する表現
- (D) 充実感・達成感・テストの得点の向上に関する表現
- (E) 勉強に対する効果的な刺激や楽しみが得られることに関する表現

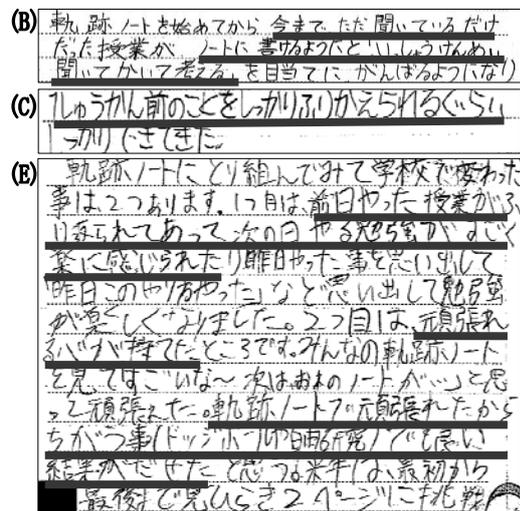


図4: 児童の記録 (K.A.; 女児, E.R.; 女児, R.M.; 男児)

図 4 のように児童は、自分の変容を自分自身で認識していることがわかる。(B) について

での記述からは、今日のこの授業だったら何を書こうか (次の外化への準備 ⇒ 内省) ということを考えながら授業を聞くようになっていたことが読み取れる。このことより「自ら学ぶ力」が育成されているとあってよいだろう。また (E) では、この軌跡ノートがドッジボールや自由研究といった学校生活の別の場面の頑張りにも影響していることがわかる。次の日の勉強が楽に感じられることや (C) の1週間前のことを振り返られるくらいといった、まさに学習指導要領の望まんとしている「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動」がなされていることが記述からもうか

がえる。そして、これら全体を通し、学習指導要領改訂のポイントである「学習意欲の向上や学習習慣の確立」をも可能にしていることは明らかであろう。

## (5) 自主学習ノートに対する保護者の評価

### ① OPPシートの記述から得られた知見

保護者の OPP シートに書かれた「あたりまえになり…」「日々の成長を感じた」「本人も楽しんで取り組んでいるようで…」という記述からは、児童の変容を保護者も見取っていることがわかる。また、「自分の子供がこんなノートを書いていることも知らず…意外にもしっかり書いてありびっくりした」という記述からは、数か月にわたり児童が取り組んでいることであっても、具体的な事例を示さない限り、理解してもらいにくい実態が浮かび上がってくる。このことから、OPPシートの有効性が保護者にも実感されている。

### ② 振り返りシートの記述から得られた知見

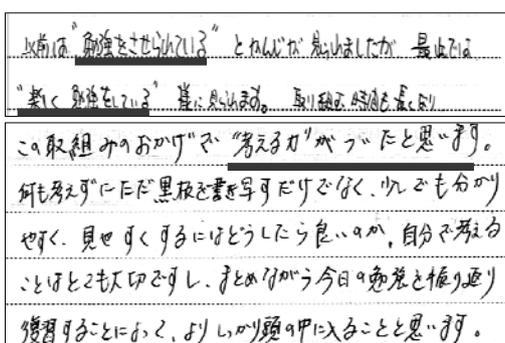


図5:保護者の記録(S.Y.;母親,A.G.;父親)

図5の記述から、自主学習ノートへの取り組みを通して児童が、「勉強させられている」という受け身の姿勢から「楽しく勉強している」姿へと変容したり、「考える力がついた」と保護者が見取っていることがわかる。

## 5. 総合考察

小学校での実践から得られた知見から、自主学習ノートにおける小・中のスムーズな移行に関し、以下の4つの提言ができる。

まず1点目は記録内容の明確化である。その日の各授業の最重要事項に限定することによって、授業を受ける態度の変容がみられることや、その日の授業と家庭学習とをリンク

させることが可能になった。2点目としては、OPPシートの導入があげられる。小学校児童でも十分に自分の変容を見取っていることがわかる。これは中学生にも有効であると考えられると同時に、ますます子どもとの距離が離れていく保護者と学校との連携を図る1つのきっかけとなり得るだろう。3点目として、5年生の場合、週3回に限定することによって効果が得られた。中1のスタート時でいきなり毎日という課題ではなく、6年生の時の学習状況を理解した上での段階的なステップを踏むことが必要なのではないだろうか。最後に4点目として、外発的動機付けとしての働きかけとして、見本例の掲示や賞状といった工夫を凝らしたが、思春期にさしかかる中学生の場合、配慮することも必要であろう。

自主学習ノートへの取り組みを通しての自ら学ぶ力の育成に関するこれらの知見が得られたのは、偏に異校種間研修の賜物であり、こういった結果が効果的な小・中の接続を図る上での形態や位置づけを示している。

## 6. おわりに(来年度実習への課題)

授業と家庭学習との接続による学習習慣の確立については、概ね達成できたととらえられるが、まだまだ日常化されない児童がいることも忘れてはいけない。限られた時間の中で、未提出や思うように進まない児童へいかに対応していくかということに難しさを感じている。また、子ども同士の相互評価という視点も必要であろう。来年度はこれらの点に重点を置き所属校である中学校で実習に臨む。

## 7. 参考文献

- 阿部昇『頭がいい子の生活習慣』ソフトバンククリエイティブ,2009
- 堀哲夫『一枚ポートフォリオ評価 中学校編』日本標準,2006
- 堀哲夫「これからの小中学校で育てたい理科の学力」『指導と評価』Vol.57, pp.19-22, 2011
- 草野啓顕『家庭学習・学習習慣・学習意欲の育成とノート指導』2006
- 文部科学省『学習指導要領』東京書籍,2009
- 中村享史『「書く活動」を通して数学的な考え方を育てる算数授業』東洋館出版社,2002
- 志水宏吉『学力を育てる』岩波新書,2005
- 『秋田県式家庭学習ノート』主婦の友社,2009